

主 題：クリスチャンとは—神によって救われた者—

聖書箇所：ローマ人への手紙 6章15－18節

前回私たちが学んだことは、クリスチャンとは神によって選ばれた者であるということでした。この選びにつきましては、J・I・パッカーは著書の中で「選びとは天地創造の前から、神が墮落することを予知されていた人類の中から、イエス・キリストにあって贖い、信仰へと至らせ、義と認め、栄光を与える者を選び出していたという神の主権的な恵みのわざを言う」と述べていました。その時に、エペソ1：4－5を学んだのですが、4節にはその選びの事実が記されていました。「すなわち、神は私たちが世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。」（新改訳聖書第二版）とあります。この神の選びはいつのことだったのかというと、みことばには「世界の基の置かれる前から」と書かれています。だれがかというと、「神は」とあります。それは神の主権により、神の意志によりということです。だれをかというと、「私たちを」とパウロは述べています。それは第一義的には、パウロを含むこの手紙の宛先であるエペソの聖徒たちのことを指していますが、広い意味では、イエス・キリストを信じるすべての者たちのことを指しています。どのようにしてかということ、「キリストのうちに」とあります。それはイエス・キリストの贖いのみわざによって救われる者としてということです。そして目的は、「御前で聖く、傷のない者にしようとされました」。この意味は、聖い生き方、また正しい生き方をする者としてということです。

このように私たちは、神の選び、クリスチャンとは神によって選ばれた者たちであるということ学んだのですが、きょうはクリスチャンとは神によって救われた者であるということ、みことばを通して一緒に学んでいきたいと思っています。

もし私が世のある人に、「あなたには罪があります」と言ったら、その人はどのような反応を示すでしょうか？おそらく大多数の人が「え？私に罪がある？それは何の罪ですか？」、「私は何も法に触れるような悪いことはしていませんよ」と、答えられるのではないのでしょうか？この会話を通して、私と相手の方との共通の答えを見つけ出すことは困難です。これは何に問題があるのでしょうか？その問題とは、罪とは何かということについてのお互いの理解の違いです。私たちクリスチャンが理解している罪と、世の人々が理解している罪とはその内容、本質が違います。そしてこの罪の理解の違いこそが人間の生き方に大きな違いを生み出しているのです。世の人々が理解している罪、かつての私たちもそのように理解していた罪です。その罪とは、人間対人間のことであり、相手に損害や危害を加えることです。ですから、その罪はこのように言うことができます。まず一つは、法に触れること。法によって刑罰を科せられる悪い行いのことです。この罪は刑罰を果たし終えることによって許されます。もう一つは良心、また道徳的な咎めを受けることです。法には触れません。しかし、心に咎めを受けるのです。この多くは相手に「ごめんね」と謝罪することによって許されます。どちらも人間が人間を許すのです。

しかし、私たちクリスチャンが知っている罪は違います。それは、神から見た私たち人間の罪です。神に従わないこと、神が忌み嫌うすべての罪です。それは外側の行いだけではありません。私たちの心のうちの思いをも含んだものです。そしてこの罪の赦しは、神によって私たち人間に与えられるものです。神が私たち人間を赦してくださるのです。この罪の本質を知ることは、私たち人間にとって非常に重要なことです。なぜならそれは結果として、私たち人間の生き方を根本的に変えることにつながるからです。ですから、まず聖書の教える罪、そしてその結果について学んでいきたいと思えます。

1. 罪

最も多く使われているギリシャ語のことばは、“ハマルティア”ということばです。このことばは

「的を外す」という意味を持っています。人が悪い的を目指したために、正しい的を外すことです。罪は、神への全き愛と、神への完全な服従という神のみこころに沿った目標、基準に命中することに失敗することです。ゆえに聖書が教える罪は常に神に対する罪です。エペソ 2 : 1 に「あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって」と書かれています。また罪は、神から離れて神に反逆し、神に敵対することです。神を無視して、自己中心的な生き方をすることです。パウロは、ガラテヤ 5 : 19 - 21 で「:19 肉の行いは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、:20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、:21 ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のものです。」と述べています。また、罪はすべての人間と全被造物を含むこの世の現実です。エペソ 2 : 1 - 3 に「:1 あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、:2 そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。:3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」とあります。またパウロは、詩篇 14 : 1 - 3 を引用して、ローマ 3 : 10 - 12 でこのように述べています。「:10 ……義人はいない。ひとりもない。:11 悟りのある人はいない。神を求める人はいない。:12 すべての人が迷い出て、みな、ともに無益な者となった。善を行う人はいない。ひとりもない。」と。

A. 罪の結果

今、私たちは聖書が教える罪がどのようなものなのか、その本質を見ました。それは唯一まことの神を神としてあがめず、また神に従わず、敵対することでした。そしてその神を無視した生き方、反逆した生き方に対して、神のさばきがある、神の怒りが下ると聖書ははっきりと教えています。先ほどのエペソ 2 : 3 の後半に「ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」とあります。だれの怒りなのかというと、神の怒りです。神の怒りを受けるべき子らであったのです。またパウロはローマ 2 : 5 で「ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めのない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現れる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。」と述べています。そして、その神の怒りこそ永遠の死という神の刑罰なのです。ローマ 6 : 23 に「罪から来る報酬は死です」と書かれてあるとおりです。ここでパウロは、罪によって受ける当然の報いは「死」であると述べています。この「死」は、肉体的な死だけではなくて、神から離れた霊的な死、そして最も悲惨な永遠の死があることを私たちに教えています。黙示録 20 : 15 には「いのちの書に名のある者はいない者はみな、この火の池に投げ込まれた。」、これが永遠の死の姿です。

私たち人間に、この悲惨な永遠の火から救われる道が、また方法があるのでしょうか？ J・I・パッカーは著書の中でこう記していました。「聖書は、すべての人間が自分の罪に対する贖いを必要としており、しかも自分で自分の罪を贖うための力も能力も完全に欠いている者である」、このように述べていました。私たち人間は、自分の力でこの罪と罪の刑罰から自分を救うことはできません。全くの無力です。

2. 救い

では、だれが私たちを救ってくれるのでしょうか？ 私たちに救いの道はあるのでしょうか？ それは唯一まことの神だけが可能です。この神だけが私たち人間の罪を解決し、私たちを救うことがおできになる方です。この後、この救いについても少し見ていきたいと思います。

この救いとは、一般的には危険と悲惨な状態から安心、また安全な状態へ移されることです。それは私たち人間を罪の圧政から解放し、本当の自由と幸福を与えてくださることを意味しています。そしてこの救いは、イエス・キリストにのみそれを見出すことができます。使徒 4 : 12 に「この方以外には、だれによっても救いはありません。」、世界中で、この御名のほかには私たちが救われるべき名としては、どのような名も人間に与えられていないからです。「この方以外には」、イエス・キリストのことですよ？ また、先ほども見たエペソ 2 : 4 - 5 にも「:4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちが愛してくださったその大

きな愛のゆえに、:5 罪過の中に死んでいたこの私たちがキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです——」と書かれています。

A. 救いの本質

この救いの本質はどのようなものでしょうか？それを見ていこうと思います。

a. 神からの福音です

パウロはローマ 1 : 1-4 に「:1 神の福音のために選り分けられ、使徒として召されたキリスト・イエスのしもべパウロ、:2 ——この福音は、神がその預言者たちを通して、聖書において前から約束されたもので、:3 御子に関することです。御子は、肉によればダビデの子孫として生まれ、:4 聖い御霊によれば、死者の中からの復活により、大能によって公に神の御子として示された方、私たちの主イエス・キリストです。」と記しています。パウロはここで神の福音は御子に関するのだと述べています。ですから、私たちはこの御子なるイエス・キリストを知ることが何よりも重要です。主イエス・キリストの福音なのです。神は唯一です。また、神と人との間の仲介者は唯一であって、救いの本質の一つ目、それは神からの福音です。

b. 神は御子イエス・キリストを遣わしてくださいました

聖書は至るところで、御子イエス・キリストがこの世に来られた目的、それは私たちの罪を贖うためであると述べています。ヨハネは I ヨハネ 4 : 10 で「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」、またヨハネは福音書 3 : 17 でも「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」と述べています。ヘブル人への手紙の著者も、9 : 26 で「……しかしキリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。」と記しています。救いの本質の二つ目は、神は御子イエス・キリストを遣わしてくださいましたということなのです。

c. 主イエス・キリストは十字架の死と復活により、救いのための贖いのみわざを完了されました

パウロは I コリント 15 : 3-4 でこう述べています。「:3 私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおり、私たちの罪のために死なれたこと、:4 また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、」と。私たちは自分で自分を救うことはできません。全くの無力です。救いはただ神のあわれみと恵みとによるのです。そしてそれは聖霊なる神の働きによって与えられるのです。「:8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。:9 行いによるものではありません。だれも誇ることをないためです。」(エペソ 2 : 8-9)、私たちはここまで聖書が教える罪について、そしてその罪の結果について、罪からの救いがあることをみことばから見てきました。

3. 救われた者の姿 ローマ 6 : 15-18

私たちが救われたとはどういうことでしょうか？私たちはどのような者になったのでしょうか？この後、ローマ 6 : 15-18 を通して、そのことを見ていきたいと思います。

ローマ 6 : 15-18

「:15 それではどうなのでしょう。私たちは、律法の下ではなく、恵みの下にあるのだから罪を犯そう、ということになるのでしょうか。絶対にそんなことはありません。:16 あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であって、あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至るのです。:17 神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から服従し、:18 罪から解放されて、義の奴隷となったのです。」

ここでパウロは、6 : 1-2 を繰り返し述べています。それはこういうことです。私たちはもう律法の下にはいないのです。罪が私たちを支配することはないのです。では、今は神の恵みの下に移されたので、神の恵みの中に入れられた私たちは罪を犯しても、神は赦してくださいさるのだから安心して罪を犯そ

うと考えているならば、それは大変な間違いであるとパウロはここで強調して、16節からその意味することを語っています。16節「あなたがたはこのことを知らないのですか。」とパウロは問いかけています。パウロは読者たちに、あなたがたはこのことをよく知っているでしょう？また知らなければ、知る必要がありますよと強く訴えています。

◇奴隷

「このこと」とは、こういうことです。パウロが生きていた当時の社会に数多くの奴隷たちが存在していました。そしてこの奴隷たちの姿を通して、救われたクリスチャンの姿、また立場をパウロは述べています。現在の日本の社会には奴隷たちはいません。ですから、私たちはこの目で奴隷の姿を見ることはありません。しかし、このローマ6：15からの文脈を見ると、当時の奴隷たちの立場、また姿を理解することは非常に重要なことです。この「奴隷」には、ギリシャ語の“デューロス”ということばが使われています。奴隷とは主人に対して全き服従の者です。彼らは主人の所有財産、物です。ですから売買したり、他の人に貸す、またお互いの奴隷を交換したり、子どもに相続することもできました。ですから当時、所有者がだれなのかを表すために、焼き印等で印をつけられていたと言われています。

マタイ6：24に「だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。」と書かれています。直訳すると、より鮮明に「だれもふたりの主人の奴隷であることはできません」となります。奴隷はひとりの主人に全く服従する者です。ですから、同時にふたりの主人の奴隷であることはできないのです。この原理は霊的な領域においても同じです。この6：24の後半には「あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。」と書かれています。神に仕える者は神の奴隷です。富に仕える者、この世に従う者はこの世の支配者、サタンの奴隷だということです。私たちはひとりの主人にしか従うことができないのです。そして16節は「自分の身をささげて奴隷として服従すれば」と続いています。この「自分の身をささげて」というのは、「みずから進んで」あるいは「自分の意志で」ということです。

そして、次のことは非常に重要なことです。それはすべての人間は罪の奴隷か、神の奴隷かのどちらかに属しています。私はどちらにも属していませんという方はひとりもないのです。神の奴隷か、罪の奴隷かどちらかです。

a. 罪の奴隷とは、救われていない人たちの姿です

彼らの主人はサタンです。ですから、彼らはサタンの奴隷です。罪が彼らを支配しています。罪が命じるすべての悪を行うようにと強いられているのです。そしてその結果は死に至るのです。それは永遠のさばきである、永遠の死です。先ほどもお読みしましたが、「罪から来る報酬は死です。」、そのものです。

b. 神の奴隷とは、救われた者たちの姿・立場です

16節では「従順の奴隷」、また18節では「義の奴隷」と記されています。彼らの主人はイエス・キリストです。イエス・キリストの奴隷なのです。イエス・キリストが彼らを支配し、主人であるイエス・キリストが喜ばれることを選択し、また行おうとする者たちのことです。そして、その結果は義に至るのです。ローマ6：22にこう書かれてあります。「しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。」

ウィリアム・バークレーという神学者は、こう注解していました。「かつてあなたがたは罪の奴隷であった。罪はあなたがたを独占的に所有した。そのときあなたがたは、罪を犯すこと以外何も語ることができなかった。しかし今やあなたがたは、神を主人とした。神はあなたがたを独占的に所有しておられる。そして今やあなたがたは罪を犯すことについて語ることもさえできない。あなたがたは聖なること以外、何も語ってはならない」とパウロは述べているのです。」と。

17節には「神に感謝すべきことには」と書かれています。それは神が私たちに愛とあわれみを示してくださったことを意味しています。先ほどお読みしましたエペソ2：4-5には「：4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちが愛してくださったその大きな愛のゆえに、：5 罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとと

もに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです——」とあります。また、ヨハネはⅠヨハネ 4：9で「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。」と言っています。救いはすべて神の恵みであり、神の愛とあわれみの現れです。それは大きな犠牲を伴った愛であり、あわれみでした。それゆえに私たちは神に感謝することができるのです。私たちによったことは何一つないのです。

そして17節は「伝えられた教えの規準に心から服従し」と続いています。この「規準」ということばですが、「型」を意味するギリシャ語が使われています。英語の聖書では、この「規準」を“スタンダード”あるいは“フォーム”ということばで言い表しています。パウロが生きていた初代教会の時代において、既にある程度定型化されて定まっていた福音、信仰の「規準」があったと考えられます。パウロはそのことをⅠコリント15：1－4で述べています。「：1 兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私があなたがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それによって立っている福音です。：2 また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら、私の宣べ伝えたこの福音のことばをしっかりと保っていれば、この福音によって救われるのです。：3 私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおり、私たちの罪のために死なれたこと、：4 また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、」と。パウロは自分もこの福音を受け、そして今、コリントの人々に私の受けたこの福音を伝えていると、ここで述べています。

18節には、「罪から解放されて、義の奴隷となった」と書かれています。この「解放されて」と「奴隷となった」という二つの動詞は、受け身で不定過去という時制で書かれています。だから解放して下さっただれかがいる、奴隷とされただれかがいる、それを受けたのです。そして不定過去という時制が表す意味は、過去のある時になされた一つの決定的行為を示し、現在もそれが継続していることを表しています。だから皆さんが解放された、それは現在も継続している。義の奴隷とされた、それは今も継続しているということです。ギリシャ語の原文で、この18節の文頭に来ていることばは「解放され」たです。ですから、17節の後半から、「伝えられた教えの規準に心から服従し、解放されたのです、罪から。そして義の奴隷となったのです」と、読みかえることも可能です。

私たちクリスチャンは、神によって罪の支配から解放され、自由にされました。そして義の奴隷、イエス・キリストの奴隷とされたのです。ただ神に従う者となったのです。その立場は今に至るまで変わることはありません。私たちクリスチャンは神によって救われた者です。また、私たちクリスチャンは、神の奴隷とされた者たちです。

きょうのこのメッセージを終えるに当たり、もう一度皆さんと確認したいと思います。私たちは神の恵みによって救われました。罪に従うことしかできなかった者、罪の奴隷であった私たちは神の奴隷、主イエス・キリストの奴隷として、新しく造り変えられたのです。私たちは喜びと感謝に満ちあふれた人生を歩むことができるようになりました。そして三位一体の神に従順であることが信仰の本質であることを知りました。皆さん、奴隷はその主人に「はい」と答えることしかできない者です。私たちが神を愛し、みことばに従うことは、従順の奴隷としての姿そのものなのです。私たちは「はい」と答える者になったのです。